

## <展示・教育普及活動>

### 1.1. 展示

#### (1) 展示の更新

常設展示の大規模更新を実施しているのは27.9%。

表1.1-1 常設展示の大規模な更新

	N=	開館以降の大規模な更新 (%)		
		実施している	実施していない	無回答
全体	1,637	27.9	68.4	3.8

注 「美術館」「動物園」「水族館」「植物園」「動水植物園」を除く

表1.1-2 常設展示の大規模な更新（館種別）

	館種	大規模な更新の有無			実施の回数		
		N=	実施している		N=	回数	
			館園数	比率(%)		中央値	平均値
	総合	110	38	34.5	34	1	2.5
	郷土	306	68	22.2	56	1	2.5
	歴史	1,004	288	28.7	121	1	4.9
	自然史	107	25	23.4	236	2	2.6
	理工	110	37	33.6	21	2	3.2

表1.1-3 大規模更新以外の展示の改修・更新（複数回答）

	N=	改修・更新の実施状況 (%)			
		計画的に何年かおきに、ある程度の改修・更新をしている	機会があったとき、ある程度の改修・更新をしている	日常的に、その都度、できるところを改修・更新している	
全体	1,637	12.9	56.8	38.7	
館種	総合	110	20.0	72.7	46.4
	郷土	306	8.2	54.6	33.3
	歴史	1,004	12.4	54.4	37.8
	自然史	107	15.9	6.6	51.4
	理工	110	20.9	61.8	41.8

注) 「美術館」「動物園」「水族館」「植物園」「動水植物園」を除く

理工系で比較的实施の割合が高いのは、時代の変化に合わせ展示装置・機器を更新しているからと考えられる。

## (2) 特別展の開催

特別展を実施しているのは71.5%。

表 11-4 特別展の実施

	N =	特別展の実施 (%)			
		実施している	実施していない	無回答	
全体	2,257	71.5	23.1	5.4	
館種	総合	110	94.5	4.5	0.9
	郷土	306	66.0	29.4	4.6
	美術	477	83.6	10.1	6.3
	歴史	1,004	68.5	26.3	5.2
	自然史	107	63.6	31.8	4.7
	理工	110	66.4	25.5	8.2
	動物園	49	53.1	42.9	4.1
	水族館	46	76.1	17.4	6.5
	植物園	36	38.9	47.2	13.9
	動水植	12	41.7	50.0	8.3
設置者	国立	55	72.7	21.8	5.5
	都道府県立	328	83.2	13.7	3.0
	市立	983	73.0	21.8	5.2
	町村立	352	62.5	32.4	5.1
	公益法人	384	74.5	19.0	6.5
	会社個人等	155	49.7	40.6	9.7

特別展の回数は平均 3.3 回

表 11-5 特別展の開催状況 (館種別)

	年間開催回数(毎年開催している館について)			
	N =	平均値	中央値	
全体	1,325	3.3	2	
館種	総合	89	3.4	2
	郷土	162	2.8	2
	美術	335	3.7	3
	歴史	555	2.8	2
	自然史	51	2.4	2
	理工	64	3.5	2
	動物園	21	10.2	3
	水族館	32	3.7	3
	植物園	11	14.3	5
	動水植	5	4.2	4

注 年に数回特別展を開催すると回答した館についての集計

特別展を単独で開催することが多い館は 87.1%。

表 11-6 特別展の開催方法

		N=	単独で開催 することが 多い	どちらとも いえない	他の館等と 共催するこ とが多い	無回答
全体		1,614	87.1	8.5	3.5	0.9
館種	総合	104	90.4	4.8	4.8	0.0
	郷土	202	89.6	5.9	4.0	0.5
	美術	399	71.9	20.1	7.3	0.8
	歴史	688	93.9	3.5	1.5	1.2
	自然史	68	88.2	10.3	1.5	0.0
	理工	73	86.3	8.2	2.7	2.7
	動物園	26	96.2	3.8	0.0	0.0
	水族館	35	100.0	0.0	0.0	0.0
	植物園	14	78.6	14.3	7.1	0.0
	動水植	5	80.0	0.0	20.0	0.0

美術系で「単独で開催することが多い」の割合が低いのは、他の館等と共催し巡回展を実施することが、他の館種より多いためと推測される。

### (3) 解説と情報提供

外国語によるパンフレットを用意しているのは 40.0%。

表 11-7 展示に対する解説

		日本語による用意の有無 (N=2,257)			外国語による用意の有無 (N=2,257)		
		ある	ない	無回答	ある	ない	無回答
解説 の 種 類	館内・展示案内パンフレット	88.8	9.0	2.1	40.0	56.8	3.2
	解説シート	46.2	49.4	4.4	7.0	87.7	5.3
	スポット解説	50.3	44.7	5.0	5.9	88.4	5.7
	音声ガイド (ガイド・レシーバー)	14.3	80.9	4.8	3.9	90.9	5.1
	ガイド・ツアー	28.9	65.9	5.2	3.2	91.3	5.5
	外国語のラベル、キャプション類				19.7	75.0	5.3

日本語による展示解説の手法では、解説シートとスポット解説の割合が高い。外国語では、館内・展示案内パンフレットの作成率が高い。

3 割弱の館で展示解説員が常駐している。

表 11-8 展示室内に常駐する展示解説員

	N =	常駐の展示解説員が 「いる」と回答した館園		
		館園数	比率(%)	
全体	2,257	664	29.4	
館種	総合	110	38	34.5
	郷土	306	65	21.2
	美術	477	129	27.0
	歴史	1,004	309	30.8
	自然史	107	33	30.8
	理工	110	56	50.9
	動物園	49	11	22.4
	水族館	46	12	26.1
	植物園	36	7	19.4
	動水植	12	4	33.3

「理工」では 50.9%と高い割合を示している。説明や監視を要する体験的な展示装置があるためと考えられる。

来館者が利用できる図書室をもつ館の割合は 2 割。

表 11-9 情報提供施設・設備の有無

		情報提供施設・設備の有無(%) (N=2,257)		
		ある	ない	無回答
設備の種類	専門の部屋やコーナーがある	20.6	73.8	5.6
	専門の館員がいて対応している	20.7	73.7	5.6
	入館者自身が使えるコンピュータ端末がある	17.1	77.3	5.6
	入館者自身でコンピュータを使った資料検索ができるようになっている	11.4	83.0	5.6
	入館者が利用できる図書室がある	30.2	64.3	5.5

## 1 2. 教育普及活動

### (1) 教育普及活動の実施状況

教育普及活動としては、講演会・シンポジウムが最も多くの館で行われている。

表 1 2 - 1 教育普及活動の実施状況（全体）

	活動実施の有無		延参加者数		
	実施館園数	比率(%) (N=2,257)	N=	平均値	中央値
講演会・シンポジウム	1,048	46.4	1,015	529.7	171
講座	913	40.5	904	548.6	200
講習会・工作教室	987	43.7	966	1219.1	160
映画会	202	8.9	197	2115.6	250
自然観察会・見学会等	610	27.0	598	402.8	105.5
その他	580	25.7	565	2112.2	350

### (2) 教育普及活動の対象者

小・中学生、親子向けは体験的な活動が多い。

表 1 2 - 2 教育普及活動の対象者（活動実施館園全体／複数回答）

	N=	以下の者を対象にした活動を実施した館園の比率(%)			
		小・中学生	一般	親子	その他
講演会・シンポジウム	1,048	23.3	91.5	17.7	4.4
講座	913	32.0	82.5	18.9	4.9
講習会・工作教室	987	70.5	56.3	60.6	5.3
映画会	202	46.0	82.2	36.1	4.0
自然観察会、見学会等	610	50.5	67.2	45.7	4.8
その他	580	56.7	67.8	35.9	10.5

表 1 2 - 3 教育普及活動の対象者（館種別／複数回答）①

	活動実施館園のうち、「小・中学生」「親子」を対象とした活動を実施した館園の比率(%)									
	講演会・シンポジウム			講座			講習会・工作教室			
	N=	小・中学生	親子	N=	小・中学生	親子	N=	小・中学生	親子	
全体	1,048	23.3	17.7	913	32.0	18.9	987	70.5	60.6	
館種	総合	73	26.0	23.3	74	45.9	24.3	72	70.8	73.6
	郷土	95	18.9	9.5	114	28.1	18.4	104	72.1	58.7
	美術	268	18.7	15.7	181	27.6	16.6	238	66.0	51.7
	歴史	445	16.4	10.8	421	23.0	14.5	358	69.8	60.6
	自然史	48	45.8	41.7	38	63.2	42.1	52	69.2	69.2
	理工	56	51.8	42.9	44	75.0	34.1	84	83.3	67.9
	動物園	25	80.0	60.0	11	63.6	36.4	32	81.3	71.9
	水族館	18	50.0	33.3	9	77.8	11.1	21	76.2	61.9
	植物園	16	6.3	18.8	17	29.4	23.5	21	52.4	52.4
	動水植	4	75.0	25.0	4	75.0	75.0	5	80.0	80.0

表 1 2 - 3 教育普及活動の対象者（館種別／複数回答）②

		(同上)					
		映画会			自然観察会・見学会		
		N=	小・中学生	親子	N=	小・中学生	親子
全体		202	46.0	36.1	610	50.50	45.70
館種	総合	19	47.4	47.4	74	63.50	63.50
	郷土	17	47.1	29.4	73	52.10	38.40
	美術	50	34.0	28.0	56	37.50	30.40
	歴史	72	40.3	36.1	206	41.30	35.00
	自然史	13	76.9	61.5	68	63.20	63.20
	理工	24	66.7	29.2	52	63.50	57.70
	動物園	6	66.7	50.0	23	43.50	34.80
	水族館	1	0.0	100.0	27	55.60	51.90
	植物園	0	0.0	0.0	25	40.00	56.00
	動水植	0	0.0	0.0	6	100.00	100.00

## (3) 移動博物館

移動博物館を実施しているのは館種では「動物園」、設置者では「都道府県立」に多い。

表 1 2 - 4 移動博物館の実施状況

		移動博物館の実施率			実施回数		
		N=	実施館園数	比率(%)	N=	中央値	平均値
全体		2,257	282	12.5	275	3	9.6
館種	総合	110	27	24.5	27	2	9.3
	郷土	306	22	7.2	22	2	6.4
	美術	477	61	12.8	58	2.5	5.2
	歴史	1,004	92	9.2	92	2	6.5
	自然史	107	16	15.0	14	3.5	21.1
	理工	110	25	22.7	25	14	28.2
	動物園	49	20	40.8	18	5.5	11.5
	水族館	46	14	30.4	14	4.5	7.1
	植物園	36	2	5.6	2	7.5	7.5
	動水植	12	3	25.0	3	7	6.7
設置者	国立	55	9	16.4	9	3	3.4
	都道府県立	328	83	25.3	82	4.5	15.3
	市立	983	116	11.8	113	3	7.7
	町村立	352	29	8.2	27	2	5.3
	公益法人	384	24	6.3	23	3	5.4
	会社個人等	155	21	13.5	21	5	9.6

「都道府県立」で多いのは、館の使命として行政域内をカバーする役割があるからであろう。

移動博物館は、学校や公民館・図書館で多く実施されている。

表 1 2 - 5 対象別にみた移動博物館の実施状況（複数回答）

	N=	移動博物館の対象(%)				
		学校	公民館・図書館	地域の組織や団体	その他	
全体	282	59.6	40.4	31.9	23.8	
館種	総合	27	44.4	37.0	29.6	29.6
	郷土	22	68.2	45.5	22.7	22.7
	美術	61	60.7	44.3	24.6	16.4
	歴史	92	55.4	34.8	21.7	26.1
	自然史	16	50.0	62.5	37.5	37.5
	理工	25	92.0	72.0	52.0	8.0
	動物園	20	60.0	10.0	65.0	30.0
	水族館	14	64.3	28.6	50.0	21.4
	植物園	2	50.0	50.0	50.0	50.0
	動水植	3	0.0	0.0	66.7	66.7
設置者	国立	9	33.3	22.2	33.3	55.6
	都道府県立	83	60.2	55.4	34.9	19.3
	市立	116	65.5	37.1	27.6	20.7
	町村立	29	69.0	37.9	20.7	20.7
	公益法人	24	45.8	33.3	33.3	33.3
	会社個人等	21	38.1	19.0	57.1	38.1

## <地域・社会等との連携>

### 13. 広報・出版活動

#### (1) 広報活動

広報活動で実施率が高いのは「ホームページ」「自治体の広報誌への掲載」。

表13-1 広報活動実施状況（全体）

	広報活動の実施状況(%) (N=2,257)		
	行っている	行っていない	無回答
学校に対するポスター、ちらしの配布	64.4	33.2	2.4
学校に出かけて行つての説明	21.9	75	3.1
公民館など社会教育施設へのポスター、ちらしの配布	69.2	28.4	2.4
公民館など社会教育施設へ出かけて行つての説明	13.7	83.1	3.2
老人会、婦人会など各種団体へのポスター、ちらしの配布	22.3	74.5	3.1
老人会、婦人会など各種団体へ出かけて行つての説明	8.2	88.2	3.6
自治体の広報誌への掲載	71.8	26	2.2
個人へのダイレクト・メール	31.1	65.7	3.2
新聞への掲載	58.2	39.4	2.4
テレビによる放映	32.4	64.5	3.1
ラジオでの放送	32.7	64.3	3
車内広告	12.3	84.1	3.6
雑誌への掲載	49.8	47.4	2.9
ホームページによる広報	84.2	14.1	1.7
電子メールを使った広報	14.4	81.8	3.9
その他	7.1	33.8	59.1

自治体広報誌の掲載や社会教育施設へのポスター、ちらしの配布の割合が高いのは、全体の中で公立館の占める割合が高いためと考えられる。



表 1 3 - 2 広報活動実施状況(館種別)

	広報活動の種類	実施の割合(%)
総合 (N=110)	①ホームページによる広報	96.4
	②学校に対するポスター、ちらしの配布	91.8
	②公民館など社会教育施設へのポスター、ちらしの配布	91.8
	③自治体の広報誌への掲載	89.1
郷土 (N=306)	①自治体の広報誌への掲載	69.3
	②ホームページによる広報	69.0
	③公民館など社会教育施設へのポスター、ちらしの配布	58.2
美術 (N=477)	①ホームページによる広報	92.0
	②公民館など社会教育施設へのポスター、ちらしの配布	81.3
	③自治体の広報誌への掲載	77.6
歴史 (N=1,004)	①ホームページによる広報	80.8
	②自治体の広報誌への掲載	67.9
	③公民館など社会教育施設へのポスター、ちらしの配布	66.0
自然史 (N=107)	①ホームページによる広報	87.9
	②学校に対するポスター、ちらしの配布	68.2
	③自治体の広報誌への掲載	67.3
理工 (N=110)	①ホームページによる広報	95.5
	②学校に対するポスター、ちらしの配布	75.5
	③自治体の広報誌への掲載	74.5
動物園 (N=49)	①ホームページによる広報	91.8
	②自治体の広報誌への掲載	81.6
	③学校に対するポスター、ちらしの配布	79.6
水族館 (N=46)	①ホームページによる広報	97.8
	②新聞への掲載	82.6
	③新聞への掲載	76.1
植物園 (N=36)	①ホームページによる広報	97.2
	②公民館など社会教育施設へのポスター、ちらしの配布	75.0
	③雑誌への掲載	69.4
動水植物園 (N=12)	①ホームページによる広報	75.0
	②学校に対するポスター、ちらしの配布	58.3
	②自治体の広報誌への掲載	58.3
	②新聞への掲載	58.3
	③公民館など社会教育施設へのポスター、ちらしの配布	50.0

表 1 3 - 3 広報活動実施状況(設置者別)

	広報活動の種類	実施の割合(%)
国立 (N=55)	①ホームページによる広報	92.7
	②公民館など社会教育施設へのポスター、ちらしの配布	72.7
	③学校に対するポスター、ちらしの配布	69.1
県立 (N=328)	①ホームページによる広報	97.0
	②自治体の広報誌への掲載	89.6
	③学校に対するポスター、ちらしの配布	89.0
市立 (N=983)	①ホームページによる広報	83.5
	②自治体の広報誌への掲載	81.5
	③公民館など社会教育施設へのポスター、ちらしの配布	75.3
町村立 (N=352)	①ホームページによる広報	71.9
	②自治体の広報誌への掲載	70.5
	③公民館など社会教育施設へのポスター、ちらしの配布	60.8
公益法人 (N=384)	①ホームページによる広報	85.7
	②公民館など社会教育施設へのポスター、ちらしの配布	59.4
	③新聞への掲載	57.3
会社個人等 (N=155)	①ホームページによる広報	82.6
	②雑誌への掲載	66.5
	③新聞への掲載	61.9

(2) 出版刊行活動

刊行している出版物の上位は「特別展図録」「館報・年報」「一般向けガイドブック」。

表 13-4 出版刊行活動状況（全体）

		出版活動の状況 (%) (N=2,257)		
		作成・刊行 している	作成・刊行 していない	無回答
ガイドブック	①一般用	35.3	62.4	2.3
	②教師用	6.1	89.1	4.7
	③小・中学生用	14.4	81.3	4.3
図録	①常設展図録	29.2	66.4	4.4
	②特別展図録	38.3	58	3.7
「ニュース」等の普及誌		28.9	67.7	3.4
館報・年報		35.5	61.7	2.8
研究紀要		22.2	74.9	2.9
映像ソフト		10.3	86.4	3.4

館種別では「総合」「美術」、設置者別では「国立」「都道府県立」で多様な出版物を刊行している。

表 13-5 出版刊行活動（刊行・作成率）（全体／館種別）①

		出版刊行活動－刊行・作成率：刊行・作成している館の割合－ (%)					
		N =	ガイドブック (一般用)	ガイドブック (教師用)	ガイドブック (小・中学生用)	常設展図録	特別展図録
全 体		2,257	35.3	6.1	14.4	29.2	38.3
館 種	総合	110	50.0	16.4	19.1	44.5	65.5
	郷土	306	22.2	2.6	5.2	16.7	29.1
	美術	477	35.4	5.5	17.6	41.5	60.2
	歴史	1,004	35.0	5.6	15.0	30.7	37.4
	自然史	107	48.6	1.9	16.8	23.4	18.7
	理工	110	44.5	16.4	17.3	13.6	12.7
	動物園	49	36.7	8.2	10.2	4.1	2.0
	水族館	46	41.3	10.9	17.4	15.2	13.0
	植物園	36	38.9	2.8	8.3	8.3	0.0
	動水植物園	12	16.7	0.0	0.0	8.3	8.3

表 13-5 出版刊行活動（刊行・作成率）（全体／館種別）②

		出版刊行活動－刊行・作成率：刊行・作成している館の割合－ (%)				
		N =	「ニュース」等 普及誌	館報・年報	研究紀要	映像ソフト
全 体		2,257	28.9	35.5	22.2	10.3
館 種	総合	110	50.9	63.6	55.5	10.9
	郷土	306	17.0	20.3	13.7	4.6
	美術	477	34.4	38.6	20.3	11.5
	歴史	1,004	21.6	33.4	22.2	10.8
	自然史	107	40.2	43.0	39.3	11.2
	理工	110	43.6	40.0	14.5	8.2
	動物園	49	61.2	57.1	18.4	16.3
	水族館	46	50.0	28.3	6.5	23.9
	植物園	36	41.7	50.0	22.2	5.6
	動水植物園	12	33.3	8.3	0.0	8.3

表 13-6 出版刊行活動（刊行・作成率）（全体／設置者別）①

		出版刊行活動－刊行・作成率：刊行・作成している館の割合－（％）					
		N＝	ガイドブック （一般用）	ガイドブック （教師用）	ガイドブック （小・中学生用）	常設展図録	特別展図録
全 体		2,257	35.3	6.1	14.4	29.2	38.3
設置者	国立	55	43.6	12.7	21.8	25.5	50.9
	都道府県立	328	50.6	16.5	29.3	36.0	53.0
	市立	983	34.0	5.3	14.5	28.5	41.2
	町村立	352	25.0	2.8	6.5	20.7	23.0
	公益法人	384	34.9	2.6	8.9	35.2	38.5
	会社個人等	155	32.9	3.2	11.0	25.2	18.7

表 13-6 出版刊行活動（刊行・作成率）（全体／設置者別）②

		出版刊行活動－刊行・作成率：刊行・作成している館の割合－（％）				
		N＝	「ニュース」等 普及誌	館報・年報	研究紀要	映像ソフト
全 体		2,257	28.9	35.5	22.2	10.3
設置者	国立	55	47.3	58.2	43.6	18.2
	都道府県立	328	52.4	67.4	47.3	14.6
	市立	983	28.3	35.0	20.1	9.2
	町村立	352	13.6	19.0	11.1	5.7
	公益法人	384	25.5	30.2	19.0	12.5
	会社個人等	155	19.4	13.5	7.7	10.3

## 14. 後援会・協力会

### (1) 後援会・協力会の設置

設置率には大きな変動は見られないが、個人会員が増加している。

表14-1 後援会・協力会の有無

	N=	後援会・協力会の有無 (%)			
		ある	ない	無回答	
全体	2,257	10.1	87.8	2.1	
設置者	国立	55	14.5	83.6	1.8
	都道府県立	328	13.7	85.4	0.9
	市立	983	8.1	89.3	2.5
	町村立	352	8.8	89.5	1.7
	公益法人	384	14.3	83.3	2.3
	会社個人等	155	6.5	91.6	1.9

表14-2 後援会・協力会の有無の推移

	平成9年		平成16年		平成20年	
	N=	ある (%)	N=	ある (%)	N=	ある (%)
全体	1,891	8.9	2,030	10.9	2,257	10.1

表14-3 会員数の中央値及び平均値

	平成16年			平成20年		
	N=	中央値	平均値	N=	中央値	平均値
個人会員	141	44	139	157	60	166
団体会員	107	4	22	129	3	25

注 単位は個人会員は(人)、団体会員は(団体)

地域や、広く社会から支援を得るために、友の会やボランティアとは別に「後援会」や「協力会」を設置している博物館が約1割存在する。指定管理者制度の導入等の運営形態の変化による増減や、友の会やボランティア、その他市民団体が独立性を高めてNPO法人等の協力会を設立する例なども想像されるところであるが、設置率は大きな変動はない。しかし、会員数については、特に個人会員において増加が目立っており、設置されている後援会・協力会の活動は全体としては充実の方向に向かっているものと思われる。

### (2) 後援会・協力会からの援助・協力の内容

教育普及活動への支援が多い。運営経費の支援は33.6%である。

表14-4 後援会・協力会から受けている援助・協力(複数回答)

	N=	以下の援助・協力を受けていると回答した施設の割合 (%)						無回答	
		運営経費	資料収集	教育普及活動	研究活動	広報活動	その他		
全体	229	33.6	27.1	54.1	22.3	34.1	17.9	2.6	
設置者	国立	8	50.0	37.5	50.0	25.0	25.0	25.0	12.5
	都道府県立	45	22.2	35.6	60.0	13.3	37.8	15.6	4.4
	市立	80	20.0	17.5	60.0	21.3	33.8	25.0	2.5
	町村立	31	9.7	51.6	71.0	38.7	22.6	16.1	0.0
	公益法人	55	74.5	16.4	30.9	23.6	36.4	10.9	0.0
	会社個人等	10	30.0	40.0	60.0	10.0	50.0	10.0	10.0

後援会・協力会等の名称ながら、その目的や構成は館によって千差万別である。公立の博物

館では、教育普及活動や広報活動、資料収集、研究活動への支援が多いが、「公益法人立」の博物館では、運営経費の支援が最も多くなっており、設置者ごとの後援会・協力会の性格の大きな違いを反映したものとなっている。

## 15. 友の会

### (1) 設置の有無

友の会がある館は22.2%。経年的には大きな変化は見られない。

表15-1 友の会の有無（設置者別・館種別）

		回答館園数	友の会の有無 (%)		
			ある	ない	無回答
全体		2,257	22.2	76.0	1.9
設置者	国立	55	16.4	81.8	1.8
	都道府県立	328	36.0	61.6	2.4
	市立	983	21.5	77.1	1.4
	町村立	352	11.9	87.2	0.9
	公益法人	384	25.5	71.6	2.9
	会社個人等	155	14.2	82.6	3.2
館種	総合	110	37.3	62.7	0.0
	郷土	306	12.4	86.6	1.0
	美術	477	35.8	62.5	1.7
	歴史	1,004	16.7	80.8	2.5
	自然史	107	26.2	72.9	0.9
	理工	110	18.2	81.8	0.0
	動物園	49	38.8	59.2	2.0
	水族館	46	4.3	91.3	4.3
	植物園	36	30.6	63.9	5.6
	動水植	12	16.7	83.3	0.0

表15-2 友の会の有無の推移

	平成9年度		平成16年度		平成20年度	
	N=	ある (%)	N=	ある (%)	N=	ある (%)
全体	1891	21.3	2030	23.5	2257	22.2

設置率は、平成4年調査では23.2%、平成9年調査では21.9%、平成16年調査では23.5%、今回22.2%と、大きな変化はない。

設置者別では、最も設置率が高いのは「都道府県立」。「町村立」の設置率は低い。館の規模が比較的小さいこと、利用者と館の地理的な距離が近いことなど様々な要因が考えられるが、「友の会」は、支援者・協力者の組織化と拡大のツールであり、導入に向けた検討を期待したい。

なお、館種別では「動物園」「総合」「美術」が高い。特に「動物園」については、平成9年(15.6%)、平成16年(33.3%)、平成20年(38.8%)と増加がめざましい。一方、「水族館」「郷土」「歴史」が低い。

## (2) 会員数

大きな変化はないが、家族会員が減少ぎみの傾向が見える。

表 15-3 会員数の平均値帯及び中央値

	平成16年会員数(個人会員は人数, 家族・団体会員は件数)			平成20年会員数(個人会員は人数, 家族・団体会員は件数)			平成20年会費(円)		
	N=	中央値	平均値	N=	中央値	平均値	N=	中央値	平均値
個人会員	443	154	374	472	150	437	447	2,000	2,754
家族会員	112	41	179	131	33	112	138	3,000	4,214
団体会員	129	10	46	145	13	35	147	10,000	23,791

友の会の性格は、(1)比較的会員数が少ないが友の会の自主的な活動が盛んなところや、(2)比較的会員数が多く入館料や会報等の特典の提供が中心のところなど、様々な性格があり、一律に取り扱うことは困難であるが、中央値を見ると、個人会員では会費が 2,000 円で会員数が 150 人程度、家族会員では会費が 3,000 円で会員数が 33 家族程度というのが代表的な姿と見ることができる。

## (3) 活動内容及び特典

友の会の活動内容は会報発行、行事協力が多く。特典は「平常展割引」の割合が 7 割強と高くなっている。

表 15-4 友の会の活動内容 (複数回答)

	N=	友の会の活動内容 (%)					
		行事協力	会報発行	学習会	その他	無回答	
全体	500	53.4	62.0	46.2	42.8	8.6	
設置者	国立	9	11.1	66.7	33.3	33.3	33.3
	都道府県立	118	55.1	76.3	49.2	55.1	2.5
	市立	211	62.1	65.4	56.4	45.0	3.8
	町村立	42	73.8	45.2	45.2	38.1	9.5
	公益法人	98	32.7	48.0	29.6	30.6	19.4
	会社個人等	22	31.8	45.5	13.6	22.7	27.3
館種	総合	41	70.7	80.5	65.9	39.0	0.0
	郷土	38	55.3	42.1	44.7	39.5	5.3
	美術	171	50.3	62.0	34.5	48.0	11.7
	歴史	168	56.5	56.5	49.4	39.3	8.3
	自然史	28	60.7	82.1	71.4	39.3	0.0
	理工	20	35.0	65.0	55.0	40.0	20.0
	動物園	19	31.6	78.9	47.4	52.6	0.0
	水族館	2	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0
	植物園	11	45.5	63.6	27.3	54.5	18.2
	動水植	2	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0

友の会の活動としては、「会報発行」の割合が最も高く、次いで「行事協力」が多い。「その他」の回答でも様々な博物館活動の支援や補助を答えた回答が多い。経年で見てみると、「行事協力」については、平成 9、16、20 年度調査でそれぞれ 44.9%、52.9%、53.4%と、増加している。一方、「学習会」については 57.8%、47.7%、46.2%と減少している。

表 15-5 友の会の特典（複数回答）

	N =	友の会の特典 (%)								
		平常展割引	特別展割引	ショップ割引	会報受領	行事への優先参加	優先利用	その他	無回答	
全体	500	71.0	65.2	35.4	66.2	43.4	20.0	18.0	4.8	
設置者	国立	9	77.8	66.7	77.8	77.8	44.4	22.2	66.7	0.0
	都道府県立	118	74.6	64.4	43.2	83.1	30.5	9.3	22.9	3.4
	市立	211	71.1	64.9	26.1	63.5	41.2	18.0	12.3	3.3
	町村立	42	57.1	50.0	23.8	50.0	52.4	33.3	11.9	11.9
	公益法人	98	75.5	77.6	48.0	61.2	57.1	30.6	23.5	4.1
	会社個人等	22	54.5	45.5	31.8	50.0	54.5	22.7	13.6	18.2
館種	総合	41	65.9	63.4	29.3	78.0	29.3	12.2	19.5	4.9
	郷土	38	39.5	28.9	10.5	42.1	44.7	28.9	13.2	10.5
	美術	171	80.1	85.4	48.0	62.0	48.0	15.8	19.9	4.1
	歴史	168	74.4	66.7	29.8	66.1	49.4	26.2	11.9	4.8
	自然史	28	78.6	71.4	46.4	75.0	17.9	25.0	10.7	3.6
	理工	20	75.0	35.0	45.0	80.0	50.0	15.0	35.0	0.0
	動物園	19	36.8	5.3	15.8	89.5	26.3	10.5	36.8	10.5
	水族館	2	50.0	50.0	100.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	植物園	11	54.5	18.2	9.1	81.8	18.2	9.1	27.3	0.0
	動水植	2	0.0	0.0	50.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0

友の会の特典としては、「平常展割引」の割合が最も高く、次いで「会報受領」と「特別展割引」が高くなっている。

友の会は、博物館と利用者・市民とを繋ぐ懸け橋の一つであり、地域博物館をはじめとして各館様々な形で可能性を持つ取組みである。館種別で「動物園」の取組みが平成 16 年度に比して充実していることが目立つが、その他全体としては必ずしも充実・進展してきているとは言えない。

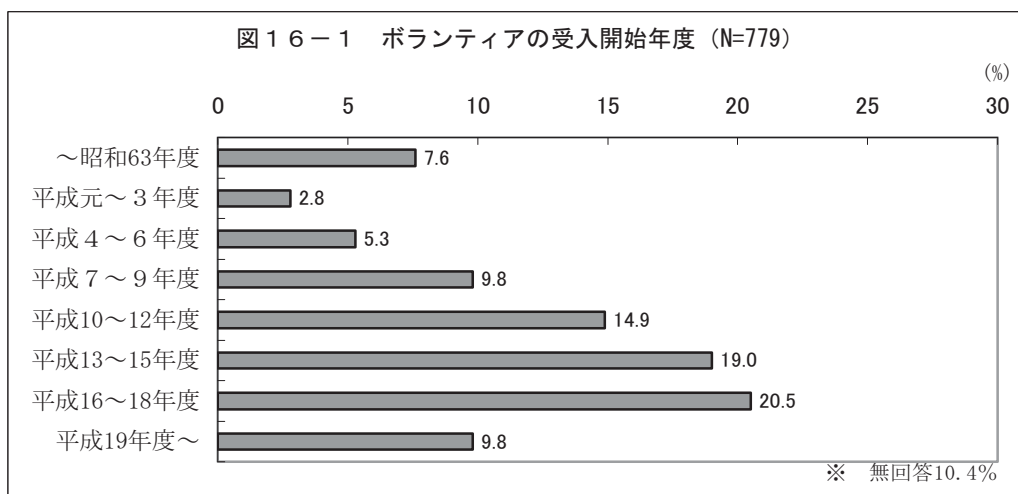
## 16. ボランティア

### (1) ボランティアの受入れ

ボランティアの受入れについては、設置者では「都道府県立」、館種では「動物園」が積極的である。全体としても受入れ体制の整備が急速に進んでいる。

表16-1 ボランティアの受入れ状況（設置者別・館種別）

		N=	ボランティアの受入れ (%)		
			いる	いない	無回答
全体		2257	34.5	64.0	1.5
設置者	国立	55	41.8	58.2	0.0
	都道府県立	328	64.6	33.5	1.8
	市立	983	36.0	62.7	1.3
	町村立	352	25.0	73.6	1.4
	公益法人	384	22.9	75.3	1.8
	会社個人等	155	9.0	89.7	1.3
館種	総合	110	53.6	45.5	0.9
	郷土	306	22.5	76.5	1.0
	美術	477	33.5	64.4	2.1
	歴史	1004	32.9	65.7	1.4
	自然史	107	44.9	54.2	0.9
	理工	110	47.3	51.8	0.9
	動物園	49	59.2	38.8	2.0
	水族館	46	28.3	69.6	2.2
	植物園	36	44.4	55.6	0.0
	動水植	12	25.0	66.7	8.3



ボランティアの受入れを行っている館のうち、約半数(49.3%)が平成13(2001)年度以降に受入れを開始している。

### (2) ボランティアの活動内容

ボランティアの活動内容は「案内等」「付帯活動」(イベントの運営、「友の会」の業務、広報活動など)が多く、「接客補助」を含め、来館者の案内や教育普及活動の支援が多いことがわかる。



表 16-2 ボランティアの活動内容（複数回答）

	N =	ボランティアの活動内容 (%)								
		学芸補助	接客補助	付帯活動*	案内等	環境整備	事務補助	その他	無回答	
全体	779	32.5	27.5	40.4	56.1	25.2	14.0	17.8	1.5	
設置者	国立	23	43.5	26.1	39.1	73.9	21.7	13.0	4.3	0.0
	都道府県立	212	37.3	24.5	51.9	61.8	21.7	19.8	18.9	0.5
	市立	354	31.4	27.4	38.7	58.2	24.3	11.3	18.6	1.4
	町村立	88	29.5	19.3	37.5	33.0	36.4	6.8	11.4	5.7
	公益法人	88	28.4	45.5	25.0	54.5	25.0	20.5	19.3	1.1
	会社個人等	14	14.3	14.3	28.6	42.9	35.7	0.0	35.7	0.0
館種	総合	59	54.2	33.9	45.8	57.6	23.7	6.8	18.6	0.0
	郷土	69	43.5	26.1	31.9	47.8	30.4	5.8	21.7	2.9
	美術	160	38.8	38.8	43.8	51.9	18.8	35.0	17.5	0.6
	歴史	330	20.3	21.5	35.2	58.8	27.3	9.1	17.3	2.1
	自然史	48	50.0	14.6	56.3	37.5	29.2	10.4	18.8	2.1
	理工	52	34.6	30.8	53.8	57.7	5.8	7.7	15.4	1.9
	動物園	29	24.1	44.8	44.8	72.4	44.8	3.4	6.9	0.0
	水族館	13	38.5	30.8	38.5	84.6	38.5	0.0	23.1	0.0
	植物園	16	43.8	12.5	37.5	68.8	31.3	25.0	25.0	0.0
	動水植	3	33.3	33.3	33.3	66.7	33.3	33.3	66.7	0.0

\*イベントの運営、友の会の業務、広報活動など

表 16-3 ボランティア保険加入の費用負担

		(%) (N=472)
負担状況	館の負担	63.6
	本人負担	13.1
	館と本人の負担	1.3
	その他	18.9
	無回答	3.2

活動内容については、来館者との接点である「案内等(入館者に対する案内、説明、解説など)」や「付帯活動(イベントの運営、広報活動、友の会の業務など)」が高い。また、「学芸補助(展示の作業、資料の整理など)」も3割である。学芸補助については、館種としては「総合」「自然史」が高い。様々な経験、知識を有するボランティアが、古文書の解説や修復に参加したり、地域の自然調査を行っている例もあり、ボランティアが調査研究や資料収集等の活動に加わることで、地域との連携の充実、地域の学習力の強化等も促進されていくのではないかと期待される。

ボランティア保険については、経年では、平成9年、16年、20年調査でそれぞれ46.6%、54.0%、60.6%と加入率が増加しているが、4割弱が未加入である。ボランティア自身の怪我だけでなく、ボランティアが来館者に怪我を与えてしまうことなども想定され、ボランティア活動の支援のためにも、加入の促進が必要である。なお、このような趣旨から、加入しているケースでは、館が費用負担している例が多い。

## 17. 部外連携・交流

### (1) 他の博物館等との連携・協力について

国内の他の博物館との連携・協力については資料の貸借が多く、次いで共同展の実施である。外国の博物館等との定期的な交流は、館種としては「動物園」「水族館」「植物園」において、連携・交流を実施しているという回答が高めである。設置者としては「県立」が高く、「町村立」が低めである。

表 17-1 国内における他館との連携・交流の実施状況(館種別)①

	N=	他館との連携・交流(国内) (%)			
		実施している	実施していない	無回答	
全体	2,257	61.6	37.4	0.9	
館種	総合	110	84.5	15.5	0.0
	郷土	306	45.1	54.2	0.7
	美術	477	74.4	24.7	0.8
	歴史	1,004	57.1	41.7	1.2
	自然史	107	56.1	43.0	0.9
	理工	110	54.5	43.6	1.8
	動物園	49	89.8	10.2	0.0
	水族館	46	82.6	17.4	0.0
	植物園	36	58.3	41.7	0.0
	動水植	12	75.0	25.0	0.0

表 17-1 国内における他館との連携・交流の実施状況(設置者別)②

	N=	他館との連携・交流(国内) (%)			
		実施している	実施していない	無回答	
全体	2,257	61.6	37.4	0.9	
設置者	国立	55	63.6	34.5	1.8
	県立	328	77.7	20.7	1.5
	市立	983	60.8	38.4	0.8
	町村立	352	49.7	50.0	0.3
	公益法人	384	63.3	35.7	1.0
	会社個人等	155	54.8	43.9	1.3

表 17-2 国内における他館との連携・交流の内容(複数回答)

	N=	以下の連携・交流を行っているという回答した施設の割合 (%)							
		資料貸借	資料交換	共同展実施	共同研究	学芸員の派遣・受入れ	その他	無回答	
全体	1,391	89.6	18.5	35.4	7.5	5.8	11.8	0.5	
館種	総合	93	100.0	20.4	54.8	4.3	8.6	5.4	0.0
	郷土	138	93.5	7.2	23.9	2.9	1.4	5.8	0.7
	美術	355	88.2	14.4	54.1	8.7	7.3	10.1	0.3
	歴史	573	91.6	9.4	30.7	6.6	4.9	13.1	0.7
	自然史	60	86.7	35.0	31.7	6.7	8.3	16.7	0.0
	理工	60	66.7	18.3	18.3	6.7	3.3	31.7	0.0
	動物園	44	90.9	84.1	6.8	25.0	9.1	9.1	0.0
	水族館	38	86.8	86.8	5.3	21.1	10.5	10.5	0.0
	植物園	21	57.1	71.4	23.8	4.8	4.8	9.5	4.8
	動水植	9	100.0	77.8	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0

表 17-3 館種の異なる館との連携の有無(館種別)①

	館種の異なる館との連携の有無/ 他館と連携を行っている館 (%)				館種の異なる館との連携/ 全回答館 (%)		
	N=	ある	ない	無回答	N=	ある	
全体	1,391	34.7	61.8	3.5	2,257	21.4	
館種	総合	93	51.6	43.0	5.4	110	43.6
	郷土	138	29.7	67.4	2.9	306	13.4
	美術	355	25.1	70.7	4.2	477	18.7
	歴史	573	33.7	62.8	3.5	1,004	19.2
	自然史	60	46.7	50.0	3.3	107	26.2
	理工	60	53.3	41.7	5.0	110	29.1
	動物園	44	52.3	47.7	0.0	49	46.9
	水族館	38	42.1	57.9	0.0	46	34.8
	植物園	21	61.9	38.1	0.0	36	36.1
	動水植物園	9	0.0	100.0	0.0	12	0.0

表 17-3 館種の異なる館との連携の有無(設置者別)②

	館種の異なる館との連携の有無/ 他館と連携を行っている館 (%)				館種の異なる館との連携/ 全回答館 (%)		
	N=	ある	ない	無回答	N=	ある	
全体	1,391	34.7	61.8	3.5	2,257	21.4	
設置者	国立	35	48.6	45.7	5.7	55	30.9
	県立	255	39.6	58.4	2.0	328	30.8
	市立	598	35.3	61.2	3.5	983	21.5
	町村立	175	24.6	70.9	4.6	352	12.2
	公益法人	243	32.9	63.8	3.3	384	20.8
	会社個人等	85	36.5	57.6	5.9	155	20.0

表 17-4 連携・協力先の館の館種

	N=	連携・協力先の館の館種 (%)											
		総合	郷土	美術	歴史	自然史	理工	動物園	水族館	植物園	動水植	無回答	
館種	総合	48	37.5	60.4	72.9	70.8	45.8	16.7	18.8	22.9	12.5	10.4	0.0
	郷土	41	53.7	17.1	31.7	48.8	22.0	9.8	9.8	2.4	2.4	2.4	2.4
	美術	89	50.6	41.6	21.3	64.0	15.7	5.6	7.9	10.1	11.2	0.0	3.4
	歴史	193	43.0	49.2	64.2	41.5	24.4	7.8	8.3	4.7	2.6	2.6	2.6
	自然史	28	39.3	39.3	21.4	42.9	17.9	10.7	32.1	28.6	14.3	0.0	3.6
	理工	32	25.0	37.5	28.1	50.0	31.3	9.4	21.9	21.9	9.4	3.1	6.3
	動物園	23	21.7	17.4	17.4	21.7	47.8	8.7	17.4	43.5	17.4	8.7	0.0
	水族館	16	31.3	37.5	18.8	37.5	50.0	6.3	50.0	25.0	12.5	12.5	6.3
	植物園	13	23.1	23.1	23.1	7.7	38.5	7.7	30.8	23.1	15.4	0.0	0.0

国内の他の博物館との連携・協力については、平成9年、16年、20年調査でそれぞれ50.3%、48.1%、61.6%であり、増加傾向が見られるが、「郷土」博物館では低い。連携・協力を行っている回答した館のうち、その内容として「資料の貸借」を挙げた館が約9割である。

館種の異なる館との連携については、館種としては「総合」「動物園」等で比較的行われている。一方、「美術」は他館との連携は比較的行われているものの、館種の異なる館との連携は少なめである。設置者としては、同一自治体内に複数の博物館があることが想定される「県立」「市立」に対して「町村立」の館での連携の割合が低くなっている。

表 17-5 外国の館との連携・交流の実施状況

	N =	他館との連携・交流（外国）（%）			
		実施している	実施していない	無回答	
全体	2,257	3.9	91.8	4.3	
館種	総合	110	10.9	87.3	1.8
	郷土	306	0.7	95.4	3.9
	美術	477	3.8	92.0	4.2
	歴史	1,004	2.7	92.1	5.2
	自然史	107	3.7	91.6	4.7
	理工	110	1.8	94.5	3.6
	動物園	49	20.4	77.6	2.0
	水族館	46	17.4	82.6	0.0
	植物園	36	13.9	86.1	0.0
	動水植	12	0.0	100.0	0.0

表 17-6 大学や研究機関・研究団体との交流の実施状況

	N =	大学・研究機関との交流実施の有無（%）				
		日常的に実施	不定期に実施	実施していない	無回答	
全体	2,257	11.4	19.7	60.6	8.3	
館種	総合	110	24.5	34.5	38.2	2.7
	郷土	306	4.2	14.1	77.5	4.2
	美術	477	10.3	20.5	60.4	8.8
	歴史	1,004	9.0	16.8	64.1	10.1
	自然史	107	21.5	24.3	45.8	8.4
	理工	110	12.7	30.0	50.0	7.3
	動物園	49	30.6	26.5	38.8	4.1
	水族館	46	32.6	41.3	19.6	6.5
	植物園	36	27.8	8.3	52.8	11.1
	動水植	12	16.7	16.7	50.0	16.7

外国の博物館との定期的な交流は、動物園、水族館、植物園ではある程度取組みが行われてきている。

博物館が持つ知的・物的資源をさらに活用していくためにも、地域や館種の異なる他の博物館や研究機関等との連携の充実が期待される。実際の連携は、館の学芸員の調査研究や企画展運営等で培われた個人的ネットワークによるものも多いと思われる。

人材の育成とネットワークの強化のためには、県博協や地方公共団体の研修会その他交流の機会の増大も一つの方法であろう。

(2) 学校との連携について

遠足や授業の一環としての来館利用はよく行われている。また、学芸員が館内または出前で直接指導を行う例が増えてきている。教員向けの講習会も増加しており、学校との連携への取り組みは進んできている。

学校向けの教育プログラムの作成は、設置者別では「都道府県立」で、館種別では「動物園」「水族館」で積極的に行われている。

表 17-7 学校との連携の現状（全体）

		学校との連携や学校教育との関係（%）（N=2257）			
		よくある	時々ある	ない	無回答
連携等の種類	遠足・修学旅行等行事来館	34.6	45.5	17.7	2.3
	授業の一環としての来館	38.9	54.3	5.1	1.6
	職場体験の一環としての来館	18.3	46.0	33.4	2.3
	学芸員が館内で指導	17.1	38.7	40.9	3.3
	学芸員が学校に出向いて指導	6.4	29.1	61.4	3.1
	教師向けの事前オリエンテーション実施	7.6	34.3	55.4	2.7
	教員向け講習会実施	2.1	22.1	73.4	2.4
	教委の教員研修との連携	2.6	29.7	65.1	2.6
	資料・図書貸出	3.3	31.9	62.2	2.6
	特定の学校との教育実践研究実施	1.3	11.3	84.4	3.0
	学校5日制土曜日対応事業実施	7.7	10.9	78.6	2.7

表 17-8 学校との連携の状況（設置者別・館種別）

	N=	以下のことがらについて「よくある」と回答した施設の割合（%）											
		遠足・修学旅行等行事来館	授業の一環としての来館	職場体験の一環としての来館	学芸員が館内で指導	学芸員が学校に出向いての指導	教師向け事前オリエンテーション実施	教員向け講習会実施	教委の教員研修との連携	資料・図書貸出	特定の学校との教育実践研究	学校5日制土曜日対応事業	
全体	2,257	34.6	38.9	18.3	17.1	6.4	7.6	2.1	2.6	3.3	1.3	7.7	
設置者	国立	55	47.3	43.6	23.6	14.5	0.0	9.1	1.8	0.0	7.3	3.6	12.7
	都道府県立	328	59.8	55.5	31.4	30.2	14.3	18.3	6.7	7.0	7.0	2.4	16.5
	市立	983	33.9	43.7	20.9	19.3	7.0	7.2	1.0	1.8	3.4	0.7	8.3
	町村立	352	21.3	30.7	10.5	11.6	4.8	6.5	2.0	3.1	2.8	1.4	4.5
	公益法人	384	23.2	23.2	8.3	10.9	2.6	1.6	1.3	1.0	1.0	1.3	3.1
	会社個人等	155	39.4	29.0	15.5	4.5	1.3	4.5	1.3	1.9	0.6	1.9	1.3
館種	総合	110	53.6	61.8	30.9	36.4	14.5	13.6	2.7	5.5	8.2	0.9	16.4
	郷土	306	22.2	38.2	11.4	13.7	5.9	7.5	1.3	2.3	4.2	1.0	6.2
	美術	477	18.7	22.4	15.9	13.6	5.0	4.4	3.1	3.6	2.3	1.0	5.9
	歴史	1,004	32.2	39.9	14.4	15.6	5.0	7.4	1.5	1.9	2.8	1.3	6.7
	自然史	107	56.1	44.9	20.6	28.0	12.1	14.0	3.7	1.9	7.5	2.8	10.3
	理工	110	68.2	58.2	30.0	20.0	9.1	12.7	3.6	5.5	2.7	0.0	18.2
	動物園	49	73.5	55.1	69.4	20.4	14.3	8.2	4.1	0.0	4.1	2.0	4.1
	水族館	46	87.0	65.2	41.3	34.8	13.0	6.5	0.0	0.0	2.2	8.7	8.7
	植物園	36	50.0	22.2	22.2	8.3	0.0	5.6	0.0	2.8	0.0	0.0	8.3
	動水植	12	100.0	66.7	66.7	16.7	8.3	8.3	0.0	8.3	0.0	0.0	8.3

学芸員が館内で児童生徒を指導することが「よくある」または「時々ある」と回答した割合は、平成9年、16年、20年の調査で47.3%、55.7%、55.8%と増加してきている。また、出前授業が15.6%、33.0%、35.5%、教員対象の講習会が14.3%、22.3%、24.1%と増加するなど、

博物館側の学校連携に向けた取組みが進んできている。

表 17-9 学校向け教育プログラム作成の有無

	N =	以下のプログラムを作成している回答した施設の割合 (%)							
		常設展示 に合わせ たプログ ラム	特別展等 に合わせ たプログ ラム	学習指導 要領に 沿ったプ ログラム	総合的な 学習を念 頭におい たプログ ラム	教員対象 のプログ ラム	その他	無回答	
全体	2,257	13.9	7.6	7.1	15.1	4.6	7.8	64.7	
設置者	国立	55	18.2	18.2	7.3	25.5	10.9	10.9	56.4
	都道府県立	328	30.5	16.5	15.9	26.2	15.2	12.2	40.2
	市立	983	12.7	6.3	7.1	13.8	2.8	6.3	66.6
	町村立	352	7.4	3.7	4.3	14.2	2.0	6.0	72.4
	公益法人	384	9.6	6.5	2.6	10.1	3.1	9.0	72.4
	会社個人等	155	11.6	4.5	5.8	9.7	1.3	7.1	70.3
館種	総合	110	24.5	6.4	15.5	20.0	9.1	8.2	46.4
	郷土	306	8.2	3.3	5.9	14.1	1.3	7.8	71.6
	美術	477	14.9	18.7	2.7	9.9	6.1	7.3	64.6
	歴史	1,004	11.4	4.7	5.3	13.2	2.9	6.9	70.1
	自然史	107	23.4	7.5	12.1	24.3	9.3	11.2	54.2
	理工	110	13.6	3.6	27.3	22.7	8.2	13.6	43.6
	動物園	49	32.7	4.1	14.3	42.9	18.4	10.2	36.7
	水族館	46	32.6	2.2	17.4	32.6	6.5	0.0	52.2
	植物園	36	5.6	5.6	2.8	22.2	2.8	11.1	66.7
	動水植	12	33.3	8.3	0.0	0.0	0.0	16.7	58.3

学校向けに展示に合わせたプログラム等を作成している割合は必ずしも高くない。設置者別で見ると「都道府県立」、館種別で見ると「動物園」「水族館」は、比較的積極的にプログラムを作成・提供している様子が伺え、また「美術」では特別展に合わせたプログラムの取組みが進んでいる。

学校の授業で身近に利用されていると思われる「郷土」「市立」「町村立」のさらなる取組みを今後期待したい。

### (3) 社会教育機関、その他団体との連携・協力について

図書館、公民館との連携・協力は高いとは言えない。その他の行政の生涯学習活動や地域のサークルとの関係は頻繁ではないが或る程度行われている。NPO との連携・協力・交流については、端緒についたところであるが、「動物園」での連携が比較的高くなっている。

表 17-10 図書館・公民館との連携・協力状況

	% (N=2257)		
	ある	ない	無回答
図書館との連携・協力	20.5	75.7	3.8
公民館との連携・協力	23.2	69.6	7.1

表 17-11 地域の団体等との関係

	% (N=2257)			
	よくある	時々ある	ない	無回答
地方自治体の生涯学習活動との連携	4.3	38.1	52.5	5.1
民間のカルチャー・スクールとの連携	0.8	12.3	82.3	4.6
地域の自主的な学習サークル活動への協力	4.6	37.3	53.5	4.7
地域の自主的な学習サークル活動からの協力	2.0	21.4	71.8	4.7
地域住民や地域のサークル等への施設の貸出	9.6	30.3	55.6	4.6
地元の企業等との協賛・協力	2.5	22.5	70.0	5.0
地元の企業団体(商工会等)との協賛・協力	2.3	28.2	65.0	4.5
行政や市民主導の町づくり団体との協力	3.8	37.7	54.1	4.4
観光協会・旅行者との連携・タイアップ	8.2	36.7	50.7	4.4

地方自治体の活動との連携、地域の学習サークル活動との協力、行政や地域の町づくり団体との協力など、行政や地域サークルとの連携は、頻度はともかく、一定程度行われている。一方、企業との連携については、観光関係のものを除けば、若干低調である。

表 17-12 NPO との連携・協力・交流の状況

	回答館園数	NPO との連携・協力・交流 (%)			
		ある	ない	無回答	
全体	2,257	9.0	86.6	4.4	
設置者	国立	55	10.9	85.5	3.6
	都道府県立	328	18.9	76.2	4.9
	市立	983	8.7	88.3	3.0
	町村立	352	4.0	91.2	4.8
	公益法人	384	6.8	87.8	5.5
	会社個人等	155	5.8	84.5	9.7
館種	総合	110	17.3	78.2	4.5
	郷土	306	4.6	92.8	2.6
	美術	477	7.3	87.2	5.5
	歴史	1,004	7.6	87.5	5.0
	自然史	107	17.8	81.3	0.9
	理工	110	11.8	81.8	6.4
	動物園	49	28.6	69.4	2.0
	水族館	46	13.0	84.8	2.2
	植物園	36	19.4	77.8	2.8
	動水植	12	0.0	100.0	0.0

表 17-13 NPOとの連携内容

	N =	以下のことがらについて「ある」と回答した施設の割合 (%)										
		友の会 がNPO	ボラン ティア の会が NPO	協力会 がNPO	NPOから ボラン ティア が派遣	NPOと共 同して 展覧会 を企 画・開 催	NPOと共 同して 調査研 究	NPOが ショッ プやレ ストラ ン等を 運営	NPOが館 の運 営・経 営面の コンサル テーシ ョン	その他	無回答	
全体	203	3.0	7.4	6.4	7.4	21.7	16.3	6.9	1.5	45.3	1.5	
設置者	国立	6	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0
	都道府県立	62	3.2	9.7	11.3	3.2	17.7	16.1	4.8	4.8	48.4	0.0
	市立	86	4.7	8.1	7.0	9.3	25.6	11.6	9.3	0.0	45.3	3.5
	町村立	14	0.0	0.0	0.0	7.1	21.4	28.6	7.1	0.0	35.7	0.0
	公益法人	26	0.0	7.7	0.0	15.4	19.2	7.7	3.8	0.0	46.2	0.0
	会社個人等	9	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	55.6	11.1	0.0	44.4	0.0
館種	総合	19	0.0	0.0	15.8	5.3	10.5	15.8	5.3	0.0	68.4	5.3
	郷土	14	0.0	7.1	0.0	7.1	21.4	14.3	7.1	0.0	57.1	0.0
	美術	35	8.6	2.9	0.0	5.7	34.3	11.4	8.6	2.9	40.0	0.0
	歴史	76	0.0	10.5	2.6	7.9	17.1	14.5	5.3	1.3	48.7	2.6
	自然史	19	5.3	10.5	26.3	10.5	21.1	31.6	5.3	5.3	31.6	0.0
	理工	13	0.0	0.0	0.0	0.0	23.1	0.0	7.7	0.0	69.2	0.0
	動物園	14	7.1	7.1	14.3	21.4	35.7	21.4	21.4	0.0	7.1	0.0
	水族館	6	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0
	植物園	7	0.0	28.6	14.3	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0
	動水植	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

NPO の活動の内容は多様であり、連携のスタイルは多種多様である。

一概に傾向はつかみがたいが、美術、歴史、自然等の活動を行っている NPO と連携した展覧会や、共同研究が行われているようである。

また、友の会やボランティアが NPO 法人となった例も見られる。



## <人材育成>

### 18. 研修員・実習生等の受入れ

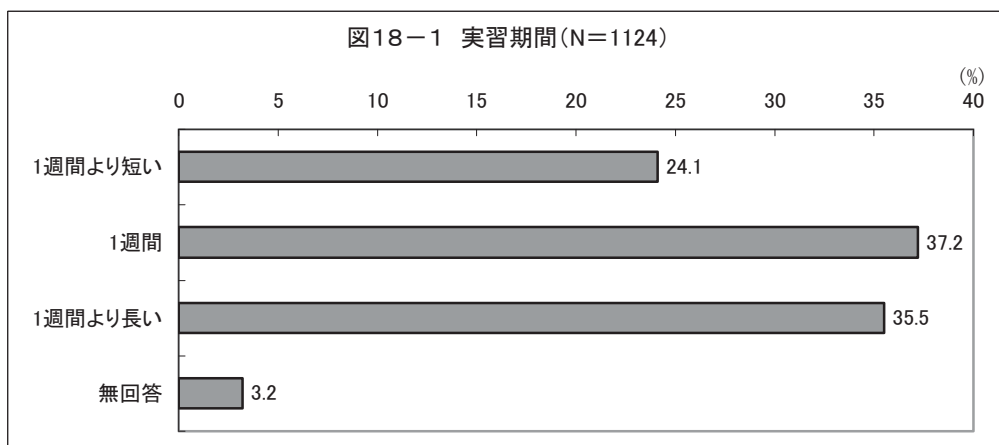
博物館実習生を受け入れている館が約半数。インターンシップへの取組みは増加しているが、その他の研究指導希望の学生や国内の研修生については低調である。

表18-1 研修員等の受入れ状況

	N =	以下について「よくある」及び「時々ある」と回答した施設の割合 (%)						
		国内の研修員	外国の研修員	博物館実習生	研究指導希望の大学生・大学院生	インターンシップの大学生・大学院生	研修を希望する学校教員	
全体	2,257	24.0	5.0	49.8	19.5	17.1	21.5	
設置者	国立	55	34.5	21.8	43.6	32.7	21.8	25.5
	都道府県立	328	36.3	13.7	67.7	29.0	37.2	40.5
	市立	983	22.4	2.6	52.8	17.5	16.1	22.0
	町村立	352	17.3	1.1	36.4	16.2	8.2	17.6
	公益法人	384	20.3	4.9	46.9	19.3	10.2	10.9
	会社個人等	155	28.4	4.5	32.9	16.1	16.1	12.3
館種	総合	110	30.9	8.2	78.2	39.1	22.7	28.2
	郷土	306	15.0	0.7	34.6	14.4	11.8	17.3
	美術	477	22.9	6.1	55.1	14.3	15.5	19.3
	歴史	1,004	19.0	3.6	47.8	17.5	12.4	17.2
	自然史	107	33.6	11.2	48.6	36.4	27.1	38.3
	理工	110	30.0	2.7	42.7	13.6	20.0	22.7
	動物園	49	75.5	22.4	73.5	44.9	67.3	57.1
	水族館	46	71.7	15.2	76.1	43.5	60.9	56.5
	植物園	36	33.3	11.1	36.1	25.0	19.4	30.6
	動水植	12	83.3	0.0	50.0	41.7	58.3	50.0

表18-2 博物館実習生の年間受入れ人数

	N =	実習生年間受入れ人数 (人)		
		中央値	平均値	
全体	966	5	9.3	
設置者	国立	18	7	14.8
	都道府県立	199	10	13.2
	市立	449	4	5.8
	町村立	99	2	2.5
	公益法人	160	6	18.5
	会社個人等	41	5	5.3
館種	総合	75	5	10.4
	郷土	86	2	4.2
	美術	215	5	11.4
	歴史	427	5	9.0
	自然史	43	5	10.0
	理工	44	9	12.5
	動物園	29	5	8.2
	水族館	30	5	6.7
	植物園	12	4	5.0
	動水植	5	4	3.8



「研究指導を希望する学生・院生」を受け入れている割合は平成 9、16、20 年調査で、それぞれ 31.8%、22.2%、19.5%、「国内の研修員」の受入れは 31.8%、26.5%、23.9%と低下傾向にある。

一方、博物館実習生を「よく」あるいは「時々」受け入れている割合は、52.2%、53.6%、49.8%であり、経年的には大きな変化はない。また「インターンシップの学生・院生」については前回の 15.6%から 17.1%と微増している。

全体として、人材育成への取組みは低調である。研修生等の受入は、労力や時間を要するものであり、博物館側の人員の削減等が影響していることも考えられる。

館務実習の単位数についての議論も行われているところであるが、博物館実習の受入期間については「1週間より長い」という回答は 35.5%に留まった。

## <博物館の財政>

### 19. 収支の状況

#### (1) 収入総額と入館料収入

設置者等からの財政支出を含めた収入総額のうち入館料収入の占める比率は、設置者により、館種により異なる。また、入館料収入の平均値、中央値とも、設置者により、館種により異なる。なお、平均値と中央値との数値の差が大きいのは、同一設置者内、同一館種内において、入館料収入が館によってかなり差があることを示している。

表19-1 総収入と入館料収入

	N=	総収入の平均 (千円)	入館料収入の平均 (千円)	入館料収入 ／総収入	
		A	B	B/A	
全体	1,539	111,495	28,491	25.6%	
設置者	国立	24	845,620	259,746	30.7
	都道府県立	255	217,835	39,218	18.0
	市立	715	62,405	13,886	22.3
	町村立	238	22,280	5,697	25.6
	公益法人	249	117,473	33,154	28.2
	会社個人等	58	285,792	139,216	48.7

表19-2 入館料収入

	N=	入館料収入		
		平均(千円)	中央値(千円)	
全体	1,539	28,491	1,979	
設置者	国立	24	259,746	7,842
	都道府県立	255	39,218	8,662
	市立	715	13,886	1,325
	町村立	238	5,697	404
	公益法人	249	33,154	3,788
	会社個人等	58	139,216	10,397
館種	総合	79	12,393	1,546
	郷土	182	2,781	236
	美術	392	25,851	4,759
	歴史	641	10,420	1,076
	自然史	74	20,551	3,273
	理工	64	23,736	8,229
	動物園	38	113,861	64,629
	水族館	39	430,157	75,577
	植物園	22	27,901	6,610
	動水植	8	99,246	33,431

#### (2) 総支出、事業費、管理費、人件費について

厳しい経済状況を反映して、支出総額と管理費、人件費が減少している。ただそのなかで、事業費は増加し、構成比率も高まっている。

支出総額の金額階層別推移は、全体に収入総額の低い方に移っている。

表 19-3 支出とその内訳の推移

	N =	支出総額の平均(千円) C	支出内訳—平均(千円)			構成比(%)		
			事業費 D	管理費 E	人件費 F	D/C	E/C	F/C
		平成8年度	1,551	131,280	46,374	45,831	39,075	35.3
平成15年度	1,570	118,536	46,874	37,888	33,774	39.5	32.0	32.0
平成19年度	1,923	113,381	50,262	33,351	29,769	44.3	29.4	26.3

表 19-4 支出総額の推移

	支出総額	平成8年度		平成15年度		平成19年度	
		館園数	全体における比率	館園数	全体における比率	館園数	全体における比率
		～1千万円未満	389	25.1	385	24.5	531
1千万～3千万円	343	22.1	358	22.8	429	22.6	
3千万～7千万円	306	19.7	296	18.9	344	18.1	
7千万～2億円	258	16.6	289	18.4	323	17.0	
2億円以上	255	16.4	242	15.4	270	14.2	

## (3) 設置者別総予算の推移

設置者別において、支出総額は国立、都道府県立、市立ともに減少しているが、町村立、会社個人等が違った傾向を示している。なお、会社個人等の平成8年度の収入総額が高いのは、他の年度に比し総額の大きい館の割合が高かったことによるものと考えられる。

また、予算の増減の傾向を見ると、平成16年と比較して、増えている館が若干あるものの、減っている館が増加し、また変わらない館が減少している。

表 19-5 設置者別支出総額の推移

	設置者	支出総額の平均(千円)			回答館園数		
		平成8年度	平成15年度	平成19年度	平成8年度	平成15年度	平成19年度
全体		131,280	118,536	113,381	1,551	1,570	1,897
	国立	546,809	606,375	602,381	25	26	37
	都道府県立	320,842	279,536	271,935	256	273	305
	市立	92,793	85,068	69,349	524	572	881
	町村立	28,004	20,777	22,900	443	396	321
	公益法人	85,069	102,071	100,511	212	232	282
	会社個人等	315,888	189,504	184,017	91	71	71

表 19-6 予算の傾向(5年前と比較して)

	設置者	回答館園数		増えている (全体における比率)		減っている (全体における比率)	
		平成15年度	平成19年度	平成15年度	平成19年度	平成15年度	平成19年度
全体		2,030	2,257	8.0	12.8	48.9	50.0
	国立	44	55	6.8	12.7	34.1	30.9
	都道府県立	317	328	7.3	8.8	65.9	66.5
	市立	662	983	9.2	14.2	57.9	54.5
	町村立	510	352	6.9	8.5	44.3	56.0
	公益法人	334	384	9.0	17.2	33.5	31.5
	会社個人等	163	155	6.1	11.6	28.8	32.9

#### (4) 特別基金制度の有無

特別の資料を購入したり、建物を新築したり、館の資産取得にあてたりするための基金制度を持つ館は、平成16年と比べると若干であるが増加している。しかし、町村立では、一貫して減少している。

表19-7 特別基金制度の状況

		特別基金制度「あり」(% (回答館園における比率))					
		平成9年		平成16年		平成20年	
		N =	比率	N =	比率	N =	比率
全体		1,891	10.0%	2,030	9.4%	2,257	10.0%
設置者	国立	42	2.4	44	2.3	55	3.6
	県立	282	16.0	317	13.6	328	14.3
	市立	598	11.9	662	10.7	983	10.6
	町村立	508	8.5	510	7.6	352	5.4
	公益法人	295	9.5	334	10.8	384	13.3
	会社個人等	166	0.6	163	0.6	155	1.9

## <コンプライアンス、危機管理、情報の保護・管理>

### 20. コンプライアンス、危機管理、情報の保護・管理

#### (1) コンプライアンス

館の活動に関わる法令・条例・条約をすぐに参照できる状態にしている館は、都道府県立、市立、町村立の順で高く、それらより、国立、公益法人立、会社個人等が低い。なお、イコム（国際博物館会議）の倫理規程の認知度は非常に低い。

表20-1 関係法令等の即時参照可否の状況

		N=	即時参照できる	即時参照できない	無回答
全体		2,257館	59.8%	35.7%	4.5%
設置者	国立	55	52.7	45.5	1.8
	都道府県立	328	75.3	21.3	3.4
	市立	984	67.0	29.2	3.8
	町村立	352	55.7	39.5	4.8
	公益法人	387	43.0	50.5	6.5
	会社個人等	155	34.8	58.7	6.5

表20-2 ICOM倫理規定の周知状況

		N=	周知している	周知していない	無回答
全体		2,257館	3.1%	93.9%	3.0%
設置者	国立	55	3.6	94.5	1.8
	都道府県立	328	4.9	93.0	2.1
	市立	983	2.4	94.9	2.6
	町村立	352	0.9	96.6	2.6
	公益法人	384	4.4	91.4	4.2
	会社個人等	155	5.8	89.0	5.2

#### (2) 危機管理

危機管理マニュアルの整備状況は、都道府県立が70.4%、国立が56.4%であるのに対して、他の設置者は5割以下である。また、防災・防犯訓練を定期、不定期を問わず実施していない館が都道府県立（7.0%）、会社個人等（15.5%）を除き20%を超えている。救命・救急訓練では同じく実施していない館が都道府県立（27.4%）を除き、40%を超えている。不特定多数の来館者を受け入れる施設としては、もっと安全管理に意を用いるべきである。

表20-3 危機管理マニュアルの整備状況

		N=	周知している	周知していない	無回答
全体		2,257館	42.2%	53.5%	4.3%
設置者	国立	55	56.4	38.2	5.5
	都道府県立	328	70.4	27.1	2.4
	市立	983	42.9	52.7	4.4
	町村立	352	24.7	72.4	2.8
	公益法人	384	28.9	65.6	5.5
	会社個人等	155	45.2	47.1	7.7

表20-4 防災・防犯訓練の実施状況

		N＝	定期的に実施	不定期に実施	実施していない	無回答
全体		2,257館	45.3%	29.7%	23.1%	1.9%
設置者	国立	55	54.5	21.8	20.0	3.6
	都道府県立	328	74.1	18.3	7.0	0.6
	市立	983	41.8	31.7	24.8	1.6
	町村立	352	31.3	29.3	38.1	1.4
	公益法人	384	40.9	34.1	22.4	2.6
	会社個人等	155	46.5	33.5	15.5	4.5

表20-5 救命・救急訓練の実施状況

		N＝	定期的に実施	不定期に実施	実施していない	無回答
全体		2,257館	14.1%	30.5%	52.9%	2.4%
設置者	国立	55	25.5	30.9	40.0	3.6
	都道府県立	328	28.4	42.4	27.4	1.8
	市立	983	11.3	30.5	56.2	2.0
	町村立	352	5.7	23.0	68.8	2.6
	公益法人	384	12.2	28.4	56.8	2.6
	会社個人等	155	21.9	27.1	45.8	5.2

### (3) 保障保険

施設賠償責任保障保険については、設置者別には、都道府県立、会社個人等が高く、館種別には、動水植、理工、自然史の順に高い。後者が高いのは展示物の性質に起因するものと考えられる。来館者傷害保障保険についても、性格が異なるものではあるが、ほぼ同様の傾向が認められる。

表20-6 施設賠償責任・来館者傷害両保障保険の加入状況

		N＝	施設賠償責任保障保険			来館者傷害保障保険		
			加入	不加入	無回答	加入	不加入	無回答
全体		2,257	46.7%	48.5%	4.8%	38.0%	56.5%	5.5%
設置者	国立	55	41.8	54.5	3.6	32.7	61.8	5.5
	都道府県立	328	63.4	35.1	1.5	47.6	50.0	2.4
	市立	983	43.2	52.9	3.9	34.5	60.8	4.7
	町村立	352	34.9	58.8	6.3	28.4	64.5	7.1
	公益法人	384	50.0	43.5	6.5	44.3	49.2	6.5
	会社個人等	155	54.2	34.8	11.0	49.0	40.0	11.0
館種	総合	110	48.2	49.1	2.7	40.9	54.5	4.5
	郷土	306	34.0	62.4	3.6	28.8	68.0	3.3
	美術	477	50.5	44.0	5.5	42.1	51.8	6.1
	歴史	1,004	40.7	53.5	5.8	31.8	61.6	6.7
	自然史	107	54.2	45.8	0.0	45.8	54.2	0.0
	理工	110	67.3	28.2	4.5	58.2	36.4	5.5
	動水植	143	81.1	14.7	4.2	65.0	30.1	4.9

注 「動水植」は「動物園」「水族館」「植物園」及び「動水植」をあわせたものである。

保険をかけることは、コストがかかることではあるが、不幸な事態が起こったときの館側の対応を迅速に、より柔軟にすることが可能となる。近年におけるように人々の権利意識が高まっているときに、考慮すべき要素である。

#### (4) 個人情報・資料のデジタル情報の保護

館が保有する個人情報の保護の方針や取扱い規定の制定状況は、全体で42.7%と低い。そのうちでも、設置者別では、都道府県立、会社個人等が、館種別には、理工、動水植が比較的高い。プライバシー尊重の時代において、一層の努力が求められる。資料デジタル情報保護の方針や取扱い規定の制定状況は、全体で20%と未だしの感がある。

表20-7 館が保有する個人情報・資料デジタル情報の保護の方針等の制定状況

	N =	個人情報保護の方針			資料デジタル情報保護の方針			
		制定	非制定	無回答	制定	非制定	無回答	
全体	2,257	42.7%	52.9%	4.4%	20.0%	74.2%	5.8%	
設置者	国立	55	50.9	43.6	5.5	32.7	63.6	3.6
	都道府県立	328	66.5	31.1	2.4	29.6	65.2	5.2
	市立	983	40.8	55.5	3.7	18.4	76.4	5.2
	町村立	352	27.0	67.3	5.7	9.1	86.4	4.5
	公益法人	384	37.0	57.6	5.5	21.4	71.4	7.3
	会社個人等	155	51.0	41.9	7.1	26.5	61.9	11.6
館種	総合	110	45.5	50.9	3.6	23.6	73.6	2.7
	郷土	306	36.6	61.4	2.0	13.4	82.4	4.2
	美術	477	49.7	46.8	3.6	26.4	67.1	6.5
	歴史	1,004	36.9	57.3	5.9	18.5	75.3	6.2
	自然史	107	38.3	60.7	0.9	15.9	79.4	4.7
	理工	110	65.5	30.0	4.5	21.8	69.1	9.1
	動水植	143	56.6	38.5	4.9	21.7	72.7	5.6

注 「動水植」は「動物園」「水族館」「植物園」及び「動水植」をあわせたものである。

#### (5) 知的財産権の保護

館が所蔵する資料や発行する著作物にかかわる知的財産権についての保護の方針や取扱いの諸規定の制定状況は、全体で21.0%と低い。知的財産権の利用者として、また生産者として、意識を高めるべきである。

表20-8 知的財産権の保護の方針等の制定状況

	N =	知的財産権保護の方針			
		制定	非制定	無回答	
全体	2,257	21.0%	73.6%	5.3%	
設置者	国立	55	38.2	60.0	1.8
	都道府県立	328	26.8	67.7	5.5
	市立	983	19.3	76.6	4.1
	町村立	352	9.7	85.8	4.5
	公益法人	384	27.1	65.9	7.0
	会社個人等	155	24.5	63.9	11.6
館種	総合	110	16.4	80.0	3.6
	郷土	306	11.4	84.3	4.2
	美術	477	28.7	65.4	5.9
	歴史	1,004	21.1	73.6	5.3
	自然史	107	22.4	73.8	3.7
	理工	110	19.1	73.6	7.3
	動水植	143	19.6	73.4	7.0

注 「動水植」は「動物園」「水族館」「植物園」及び「動水植」をあわせたものである。



#### (6) 保有するコンピューターの防護措置

館のコンピューターについて、ウィルスの感染防止、外部からの進入防止等の防護措置を講じている館は全体で76.0%と比較的高率であるが、状況を把握していない館、無回答の館をあわせて4分の1弱を占めていることが気にかかる。この傾向は、町村立、郷土で著しく、4割強を占めている。

表20-9 保有するコンピューターの防護措置の状況

	N=	全てのコンピューターをまとめて措置している	全てのコンピューターについて個別に措置している	一部に、措置されていないコンピューターがある	状況を把握していない	無回答	
全体	2,257	42.0%	23.4%	10.6%	10.9%	13.1%	
設置者	国立	55	52.7	32.7	5.5	3.6	5.5
	都道府県立	328	56.4	25.0	11.0	2.1	5.5
	市立	983	43.1	21.3	12.0	11.6	12.0
	町村立	352	26.1	21.0	11.1	17.9	23.9
	公益法人	384	39.1	27.3	8.6	12.0	13.0
	会社個人等	155	43.9	26.5	6.5	9.0	14.2
館種	総合	110	52.7	24.5	14.5	3.6	4.5
	郷土	306	27.1	21.9	10.1	19.0	21.9
	美術	477	48.8	26.8	9.4	7.5	7.3
	歴史	1,004	40.4	21.2	10.5	12.0	15.9
	自然史	107	41.1	26.2	13.1	10.3	9.3
	理工	110	54.5	24.5	8.2	4.5	8.2
	動水植	143	44.8	27.3	13.3	8.4	6.3

注 「動水植」は「動物園」「水族館」「植物園」及び「動水植」をあわせたものである。

## <博物館の抱える課題>

### 2.1. 自館の問題点

#### (1) 時系列による変化について

平成9年、平成16年、平成20年の調査の結果を比較してみると、多くの館で問題解決の方向に歩みだしている様が窺える。

平成9年、16年、20年と調査の回ごとに、「あてはまる」とする館の割合が減ってきている項目は、10項目を超えている。全体的に見た場合、過去に問題とされてきた事柄については、多くの館で改善の方向に歩みだしている。もちろん、問題としてなお残されていると思われる事柄やさらに問題となりつつあると思われる事柄も見取れる。

この間の変化を、聞き方が同じで確実に比較可能な項目に絞ってトレースすると、次のように整理できる。

- ① 展示づくりに改善の兆しが窺える。新たな展示方法の導入には、なお課題も残されている。

「常設展示の更新がなされていない」「企画展・特別展がなかなか開けない」など、展示づくりに関する問題を自館の問題としてあげる館の割合は、徐々に減ってきている。展示づくりに限ったことではないが、「館の特色がうまく出せていない」とする館も減少傾向にある。展示づくりを中心に、各館の努力が窺える。

「体験的な展示が導入されていない」とする館の割合も減っており、新たな展示方法の導入に向けての動きも活発である。しかし、「ITを利用した新しい展示方法が導入されていない」館の割合は減少しておらず、新たな展示方法の工夫という点では、なお、課題を抱えている。
- ② 入館者サイドに立った館づくりが進んでいる。

「ミュージアム・ショップやレストランなど、付帯設備が不十分」「高齢者や障害者に対する対応が不十分」「駐車場が不足している」といった問題を自館の問題としてあげる館の割合が減ってきている。館のアメニティーを高める工夫や、バリアフリーへの対応は、徐々に進んできているようである。
- ③ 施設の老朽化が大きな課題になりつつある。

「施設・建物が手狭である」とする館の割合は減っており、改善・整備に向けての取組みが窺える。その一方で、「施設・建物が老朽化してきている」ことを問題としてあげる館の割合が急速に増えている。昭和40年代後半からしばらくの間、多くの博物館がつくられた時期があったが、その頃、建設された施設・建物が老朽化し始めている様子が窺える。この点は、各館においてのみならず博物館界全体において、今後も大きな課題となってくるものと思われる。
- ④ 財務・財政、職員の数に関する問題に、改善の兆しは窺えない。

「財務・財政的に恵まれていない」「職員の数が不足している」とする館の割合は、この間、ほとんど変わっていない。財務・財政、職員は、博物館の活動の資源であり、館を支える基盤であるだけに、無視し得ない結果である。しかし、この問題は、各館の努力を超

表 2 1 - 1 自館の問題点(全体/時系列比較)

(%)

	平成 9 年 (N=1, 891)	平成16年 (N=2, 025)	平成20年 (N=2, 257)
01) 入館者が減っている。	66.6	66.0	60.3
02) 館の特色がうまく出せていない。	38.1	32.9	29.1
03) 市民のニーズに応えられていない。	52.4	43.1	40.4
04) 地域との関係が希薄である。	45.9	39.5	35.3
05) 学術的になりすぎている。	16.4	—	—
05) 学術研究にかたよっている。	—	6.5	4.9
06) 教育的になりすぎている。	10.9	—	—
06) 教育普及にかたよっている。	—	10.0	11.5
07) 観光中心になりすぎている。	18.3	—	—
07) 観光にかたよっている。	—	23.9	20.4
08) 施設・建物が手狭である。	73.6	62.9	61.3
09) 施設・建物が老朽化している。	47.8	54.8	61.5
10) 新たな資料が入手しにくくなっている。	65.6	63.4	63.6
11) 未整理の資料がたくさんある。	55.3	54.5	55.2
12) 資料をよい状態で保存することが難しくなっている。	58.9	52.9	54.9
13) 常設展示の更新がなされていない。	60.9	58.1	54.2
14) マルチメディアを利用した新しい展示方法が導入されていない。	80.8	—	—
14) I・Tを利用した新しい展示方法が導入されていない。	—	79.2	81.7
15) 体験的な展示が導入されていない。	71.6	64.0	62.3
16) 企画・特別展がなかなか開けない。	49.3	36.7	34.6
17) ミュージアム・ショップやレストランなど、付帯設備が不十分。	70.2	64.1	62.9
18) 高齢者や障害者に対する対応が不十分。	65.3	55.2	53.3
19) 駐車場が不足している。	36.9	31.6	31.5
20) 防災上の不安を抱えている。	32.7	32.4	34.5
21) 行政サイドに博物館が理解されていない。	60.3	—	—
21) 設置者側に博物館が理解されていない。	—	41.0	38.1
22) 館の管理・運営が、設置者と財団にまたがり、一元化されていない。	17.4	14.2	—
22) 館の管理・運営をめぐって、設置者と館との間の連絡調整がうまくなされていない。	—	—	26.7
23) 職員の数が不足している。	68.4	64.6	65.1
24) 学芸員が力量を生かしていない。	43.7	—	—
24) 学芸員が力量を生かしていない。	—	36.6	37.8
25) 職員の研修が不足している。	—	—	58.8
26) 業務委託に関するトラブルが多い。	6.4	5.4	4.9
27) 他の館との交流が少ない。	57.2	53.3	52.7
28) 学校教育との連携が不足している。	63.6	54.6	48.4
29) 大学や研究機関との連携が不足している。	68.2	60.2	56.4
30) 財務・財政的に恵まれていない。	74.5	71.2	73.3
31) 外国の館との交流に欠けている。	73.0	69.7	73.0
32) 館の使命・目的が明確になっていない。	—	26.3	22.3
33) 中・長期的な目標が立てられていない。	—	—	56.8
34) 評価が実施できていない。	—	—	57.6
35) 評価の結果が活用できていない。	—	—	52.7
36) 館の運営情報を地域に知らせることができていない。	—	—	49.1
37) 指定管理者制度導入の影響が予想される。	—	—	14.6
38) 市町村合併による影響が予想される。	—	27.5	16.8
39) 新公益法人制度発足の影響が予想される。	—	—	16.8

注) 「あてはまる」は、「すごくあてはまる」「まああてはまる」の合計

\*印: ワーディングが、相違。

えたところから発している。設置者をはじめ、館外の関係者の理解が求められるところである。

- ⑤「開かれた館づくり」が徐々に進んでいる。他館との連携・交流については改善が足踏み状態。

この間、「市民のニーズに答えられていない」「地域との関係が希薄である」とする館の割合が減っている。開かれた館づくりへの努力が窺える。

「学校教育との連携が不足している」「大学や研究機関との連携が不足している」とする館の割合も減少傾向にあり、館外の諸機関との連携・協力も進みつつある。

ただ、「他の館との交流が少ない」「外国の館との交流に欠けている」とする館の割合は、ほとんど変わっていない。「外国の館との交流」はすべての館に望むべきものではないが、国内の他の館との連携・交流には、今後、なお力を入れるべき課題が見て取れる。

- ⑥資料の収集・整理・保存に関わる問題に変化はなし。

「新たな資料を入手しにくくなっている」「未整理の資料がたくさんある」「資料をよい状態で保存することが難しくなっている」など、資料の収集・整理・保存に関わる問題は、3回の調査を通じて大きく変わることなく問題となっている。このような事柄は、博物館活動の基礎になることであるので、いつも、一定程度で、それを「問題」として認識する館があるとも考えられる。しかし、逆に、博物館活動の基礎であればこそ、解消に向けた兆しを見て取りたいところである。

なお、この間、地震に見舞われた館があり、防災の問題が表面化してきているが、「防災上の不安を抱えている」館の割合に変化はない。完全に不安が払拭されることはないにしても、なお、改善が求められる点であろう。

- ⑦「入館者の減少」を問題とする館の割合は減少。しかし、なお、6割の館で問題となっている。

「入館者が減っている」とする館の割合は、平成9年、16年よりも20年において少なくなっている。本調査の結果でみると、事実として全体に減少傾向が続いている。にもかかわらず、問題として「あてはまる」とする館の割合が減少していることは、入館者の確保に向けた努力になにがしかの手応えが得られはじめたということか。とはいえ、「入館者の減少」を問題として認識する館の割合は、なお、6割以上に及んでいる。この点で、問題であることに変わりはない。

## (2)平成20年調査にみる「自館の問題点」について

各館が直面する「自館の問題点」について、半数以上の館が「あてはまる」とした項目について整理すると、次の点が博物館の抱える問題点として浮き彫りになってくる。

- ①館運営の基盤に弱さがあり、また資源も不足している。

「財務・財政的に恵まれていない」「職員の数が不足している」「施設・建物が老朽化している」「施設・建物が手狭である」といった事柄を問題としてあげる館の割合が高くなっている。館運営の基盤の弱さ、資源の不足は、なお、多くの館の抱える問題である。「ミュージアム・ショップやレストランなど、付帯設備が不十分」とする館の割合も高い。

②展示方法について、なお、課題を抱えている。

「IT を利用した新しい展示方法が導入されていない」「体験的な展示が導入されていない」「常設展示の更新がなされていない」など、展示についての問題点をあげる館が半数を超えており、展示の在り方が、なお、問題となっている。

表 2 1 - 2 自館の問題点(全体/平成 20 年) (%)

	平成20年 (N=2, 257)
14) I・Tを利用した新しい展示方法が導入されていない。	81.7
30) 財務・財政的に恵まれていない。	73.3
31) 外国の館との交流に欠けている	73.0
23) 職員の数が不足している。	65.1
10) 新たな資料が入手しにくくなっている。	63.6
17) ミュージアム・ショップやレストランなど、付帯設備が不十分。	62.9
15) 体験的な展示が導入されていない。	62.3
09) 施設・建物が老朽化している。	61.5
08) 施設・建物が手狭である。	61.3
01) 入館者が減っている。	60.3
25) 職員の研修が不足している。	58.8
34) 評価が実施できていない。	57.6
33) 中・長期的な目標が立てられていない。	56.8
29) 大学や研究機関との連携が不足している。	56.4
11) 未整理の資料がたくさんある。	55.2
12) 資料をよい状態で保存することが難しくなっている。	54.9
13) 常設展示の更新がなされていない。	54.2
18) 高齢者や障害者に対する対応が不十分。	53.3
27) 他の館との交流が少ない。	52.7
35) 評価の結果が活用できていない。	52.7
36) 館の運営情報を地域に知らせることができていない。	49.1
28) 学校教育との連携が不足している。	48.4
03) 市民のニーズに応えられていない。	40.4
21) 設置者側に博物館が理解されていない。	38.1
24) 学芸員が力量を生かせていない。	37.8
04) 地域との関係が希薄である。	35.3
16) 企画・特別展がなかなか開けない。	34.6
20) 防災上の不安を抱えている。	34.5
19) 駐車場が不足している。	31.5
02) 館の特色がうまく出せていない。	29.1
22) 館の管理・運営をめぐって、設置者と館との間の連絡調整がうまくなされていない。	26.7
32) 館の使命・目的が明確になっていない。	22.3
07) 観光にかたよっている。	20.4
38) 市町村合併による影響が予想される。	16.8
39) 新公益法人制度発足の影響が予想される。	16.8
37) 指定管理者制度導入の影響が予想される。	14.6
06) 教育普及にかたよっている。	11.5
05) 学術研究にかたよっている。	4.9
26) 業務委託に関するトラブルが多い。	4.9

注) 「あてはまる」は、「すごくあてはまる」「まああてはまる」の合計

③責任ある経営・運営体制づくりが課題となっている。

市場化・分権化のなかで、各館には、経営・運営の努力が求められている。平成 20 年の調査では、館の経営・運営の努力に関わる事柄を質問に加えている。結果をみると、「館の使命・目的が明確になっていない」とする館は少ないものの、「職員の研修が不足している」「評価が実施できていない」「中・長期的な目標が立てられていない」といった項目については、6 割近くの館が自館に「あてはまる」と答えている。おおよそ 5 割の館が、「評価の結果を活用できていない」「館の運営情報を地域に知らせることができていない」と答えている。責任ある経営・運営体制の確立が求められている。

④入館者減少の問題に、なお、直面している。

「入館者が減っている」とする館の割合は、全体の 6 割である。先に述べたように、この割合は平成 16 年と比べて、少し低くなっているものの、まだ、多くの館が入館者の減少に直面している。

⑤連携・交流に、なお、不十分な点がある。

「外国の館との交流に欠けている」「大学や研究機関との連携が不足している」とする館の割合が高くなっている。「外国との交流」や「大学や研究機関との連携」は、すべての館において求められることではないが、連携・交流に関わる課題の一つとして考えておいてよいものと思われる。

(3) 館種、設置者別にみた「自館の問題点」について

館種・設置者により、直面する課題に若干の相違が見て取れる。参考までに、それぞれ上位、10項目を示しておく。

表 2 1 - 3 自館の問題点（館種別／上位 10 項目目／平成 20 年）

(%)

館種 順位	総合	郷土	美術	歴史	自然史	理工	動物園	水族館	植物園	動水 植物園
1	職員不足	新展示方法未導入	新展示方法未導入	新展示方法未導入	財務財政不足	外国交流不足	施設・建物老朽化	施設・建物老朽化	新展示方法未導入	新展示方法未導入
	84.5	89.5	83.2	82.3	76.6	70.0	81.6	80.4	86.1	91.7
2	財務財政不足	外国交流不足	外国交流不足	財務財政不足	新展示方法未導入	施設・建物老朽化	財務財政不足	外国交流不足	財務財政不足	外国交流不足
	82.7	78.1	71.3	73.3	75.7	69.1	79.6	76.1	77.8	83.3
3	外国交流不足	財務財政不足	財務財政不足	外国交流不足	外国交流不足	常設展示更新なし	新展示方法未導入	新展示方法未導入	職員不足	施設・建物老朽化
	81.8	77.8	69.6	72.0	73.8	65.5	79.6	71.7	66.7	75.0
4	新展示方法未導入	体験的展示未導入	資料入手困難	付帯設備不十分	職員不足	財務財政不足	施設・建物手狭	施設・建物手狭	他館交流不足	資料入手困難
	80.0	76.1	65.4	66.3	69.2	64.5	67.3	71.7	66.7	75.0
5	未整理資料多量	常設展示更新なし	入館者減	職員不足	常設展示更新なし	付帯設備不十分	外国交流不足	職員不足	施設・建物老朽化	評価未実施
	79.1	72.2	64.4	65.0	67.3	59.1	65.3	69.6	61.1	75.0
6	常設展示更新なし	施設・建物老朽化	体験的展示未導入	体験的展示未導入	資料入手困難	新展示方法未導入	職員不足	入館者減	外国交流不足	評価結果未活用
	73.6	70.9	64.2	64.8	64.5	57.3	65.3	67.4	61.1	75.0
7	施設・建物老朽化	資料保存困難	職員不足	資料入手困難	付帯設備不十分	入館者減	資料入手困難	財務財政不足	資料入手困難	財務財政不足
	72.7	70.6	61.4	63.7	62.6	57.3	63.3	63.0	61.1	66.7
8	資料保存困難	付帯設備不十分	施設・建物手狭	常設展示更新なし	施設・建物手狭	職員不足	評価未実施	資料入手困難	付帯設備不十分	常設展示更新なし
	71.8	69.9	58.7	62.1	58.9	56.4	61.2	56.5	61.1	66.7
9	施設・建物手狭	入館者減	大学等連携不足	施設・建物手狭	入館者減	他館交流不足	中長期目標未設定	職員研修不足	常設展示更新なし	職員不足
	70.0	69.0	58.5	61.2	58.9	56.4	57.1	54.3	61.1	66.7
10	付帯設備不十分	中長期目標未設定	職員研修不足	未整理資料多量	運営情報未公開	施設・建物手狭	高齢者等対応不十分	中長期目標未設定	学校連携不足	付帯設備不十分
	69.1	66.3	57.9	59.7	58.9	55.5	57.1	52.2	61.1	66.7

表 2 1 - 4 自館の問題点（設置者別／上位 10 項目目／平成 20 年）

(%)

設置者 順位	国立	都道府 県立	市立	町村立	公益 法人	会社 個人等
1	職員不足	財務財政 不足	新展示方 法未導入	新展示方 法未導入	新展示方 法未導入	新展示方 法未導入
	76.4	80.2	85.2	89.8	76.8	71.0
2	財務財政 不足	新展示方 法未導入	財務財政 不足	財務財政 不足	外国交流 不足	外国交流 不足
	63.6	77.1	77.9	80.4	69.0	61.3
3	施設・建 物手狭	外国交流 不足	外国交流 不足	外国交流 不足	体験の展 示未導入	入館者減
	60.0	72.0	76.3	76.7	64.3	58.1
4	施設・建 物老朽化	職員不足	資料入手 困難	体験の展 示未導入	財務財政 不足	体験の展 示未導入
	60.0	71.3	69.5	71.9	60.7	52.3
5	付帯設備 不十分	資料入手 困難	付帯設備 不十分	入館者減	評価未実 施	大学等連 携不足
	58.2	67.7	69.5	71.3	60.7	51.6
6	未整理資 料多量	施設・建 物老朽化	職員不足	職員不足	入館者減	学校連携 不足
	56.4	65.2	68.4	70.7	60.2	50.3
7	新展示方 法未導入	中長期目 標未設定	施設・建 物手狭	常設展示 更新なし	職員研修 不足	財務財政 不足
	56.4	57.3	67.7	70.5	60.2	47.7
8	外国交流 不足	付帯設備 不十分	施設・建 物老朽化	評価未実 施	施設・建 物手狭	施設・建 物手狭
	56.4	56.4	67.4	69.6	59.6	47.1
9	体験の展 示未導入	施設・建 物手狭	体験の展 示未導入	職員研修 不足	高齢者等 対応不十 分	高齢者等 対応不十 分
	54.5	55.2	65.0	68.8	59.1	46.5
10	資料保存 困難	職員研修 不足	職員研修 不足	付帯設備 不十分	学校連携 不足	施設・建 物老朽化
	49.1	54.3	61.1	68.5	56.3	44.5